

性の種とみなすには否定的な見方もあるため、今後も調査を続行していきたい。

なお、今回、森田誠司氏により、つくばの農業環境技術研究所に所蔵されている標本（田中和夫博士採集の平塚産）と直接比較されたうえ、さらに、Andrewes (1925) の再記載ともよく一致することが確認された。

末筆ながら、同定、文献のコピー、ならびに原稿の校閲の労をとって頂いた森田誠司氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- Andrewes, H. E., 1925. A revision of the Oriental species of the genus *Tachys*. *Annli. Mus. civ. Stor. nat. Genova*, 51: 327-502.
- Habu, A., 1975. Carabid beetles Mr. A. Sugimoto taken in Ishigaki Is., Ryukyus, by a black-light trap (Coleoptera, Carabidae). *Ent. Rev. Japan, Osaka*, 28: 69-84.
- 平野幸彦, 2004. コウチュウ目 Coleoptera. 神奈川県昆虫誌II :335-835.
- 和泉敦夫, 1990. 東京都のゴミムシ3種の記録. 甲虫ニュース, (90): 6.
- 中根猛彦, 1978. 日本の甲虫(48) ごみむし科2. 昆虫と自然, 13(4): 14-18.
- Nietner, J., 1858. Descriptions of new Ceylon Coleoptera. *Ann. Mag. nat. Hist.*, (3)2: 418-431.
- Tanaka, K., 1959. Notes on the Carabidae from Japan and Formosa (Coleoptera). *Kontyû*, 27: 218-220.

(大塚健之 732-0062 広島市東区牛田早稲田 1-11-2)

【短報】イシガキカタキバゴミムシ長崎県の記録

イシガキカタキバゴミムシ *Badister (Baudia) ishigakiensis* Habu, 1975 は、石垣島を基準産地として記載され、トカラ列島島島が北限となっている種である (Habu, 1975; Morita, 1994)。今回、九州本土の長崎県で採集し、本種生息地の北限となると思われるのでここに記録しておく。

1♀, 長崎県長崎市野母崎樺島町, 22. IX. 2012, 深川採集, 森田氏同定・保管。(図1)



図1. オビモンコムズギワゴミムシ。

採集地は、昭和49年に造られた地下ダムの地表にできた水辺で、水田の畦道に似た環境となっている。地下ダムは、地中に遮水壁をつくって、地下水の流れをせき止めることにより、地下水をためる構造であり、本地が日本で最初の場所である(図2)。



図1. 採集個体。

土壌は粘土質で、ヨモギ、ウマゴヤシ類などの植物が疎生している。年に1, 2回管理のため草刈が行われており、増水時には水没することもあるためか、植物の背丈が低い状態で維持され、水分を多く含んだ土壌となっている。

採集日は、日中から継続して雨となっていたため、夜間の採集時には泥がぬかるむ状態となっていた。また、本種以外にホソツヤナガゴミムシ *Abacetes leucotelus* Bates, 1873 が多数確認され、ライトで照らしながら手で直接採集していたが、本種は、これら採集個体の中に紛れ込んでいたものである。

長崎は、1571年から国内唯一の開港地として知られた場所であり、モンキタマムシ *Ptosima chinensis* Marseul, 1867 やキマダラカメムシ *Erthesina fullo* (Thunberg, 1783) など長崎以外から持ち込まれたと思われる種が知られている。本種もその可能性を否定できないものの、少なくとも本種が生息できる環境が長崎に存在していることは確かである。なお、2013年は、3月から毎月同地で採集を行っているが、個体を追加するに至って



図2. 生息地の環境。

いない。本地でも生息する個体数はあまり多くないようである。

末筆ながら、本種についてのご教示を賜った今坂正一氏と森田誠司氏にお礼申し上げる。

引用文献

- Habu, A., 1975. Carabid beetles Mr. A. Sugimoto taken in Ishigaki Is., Ryukyus, by a black-light trap (Col. Cara). Entomological Review of Japan, 28 (1/2): 69-84.
- Satō, M., Morita, S., Ohbayashi, N., Kimura, M., Sakai, M., Notsu, Y., Kaneno, S. and Hori, Y., 1994. The insects fauna of the Tokara islands of the Ryukyu archipelago. WWF Japan science report, 2 (2): 251-309.

(深川元太郎 859-2212 長崎市畝刈町 1613-262)

【短報】ハネカクシ科3種の採集記録

柴田(1985)および柴田ほか(2013)を参考に、ハネカクシ科の1追加記録, 2新分布記録を報告する。

1. オキナワデオキノコムシ *Scaphidium okinawaense* Hoshina & Morimoto

1ex., 沖縄県沖縄島名護市名護岳, 27. III ~ 1. IV. 2007, 筆者採集。

名護岳登山口付近林内の比較的平らな所に, 3基のFITと乾燥した鳩, 犬の糞を27. III ~ 1. IV. に設置したところ, 多くの糞虫とともに本種が入っていた。翌年も, 5月11-17日に同じ場所に10基のFITを同じように掛けたが追加できなかった。図鑑類には掲載されていない種であるが, 保科(2006)により同定できた。本種は沖縄島特産で3頭目の記録になる。

2. オオハネカクシ *Creophilus maxillosus* Linnaeus

1ex., 鹿児島県徳之島天城町轟, 21. VI. 2006, 筆者採集。



図1-3. ハネカクシ科3種。1, 名護岳産オキナワデオキノコムシ; 2, 徳之島産オオハネカクシ; 3, 屋久島産キンボシマルズオオハネカクシ。

分布: 北海道, 本州, 伊豆八丈島, 四国, 九州, 屋久島, 奄美大島, 徳之島(新分布), 沖縄島, 伊平屋島, 石垣島, 西表島; シベリア, 台湾, 韓国, 北朝鮮, 中国, インド, ハワイ, ヨーロッパ, 北アフリカ, アメリカ。

道路沿いの蛇の死体にきていた。

3. キンボシマルズオオハネカクシ *Oocyptus weisei* Harold

1ex., 鹿児島県屋久島平内, 3. IV. 2010, 向山敬延採集.; 1ex., 屋久島原, 11. VII. 2013, 同採集。

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島(新分布); 韓国, 北朝鮮, 中国。

この2個体とも奈良市春日山産と比べて, 上翅の金色紋は小さく, 黒色の胸背には金色毛がない。

いつも標本を提供してくださる向山敬延氏, 文献でお世話になった今坂正一氏と杉野廣一氏にお礼を申し上げる。

引用文献

- 保科英人, 2006. 琉球産鞘翅目ハネカクシ科デオキノコムシ属概説. 甲虫ニュース, (155): 11-14.
- 柴田泰利, 1985. ハネカクシ亜科. 上野俊一ほか編著, 原色日本甲虫図鑑 II: 302-304, pl. 53. 保育社。
- 柴田泰利ほか, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録(甲虫綱: 甲虫目), 九州大学総合研究博物館研究報告, 11: 124, 171-172.

(田中 稔 663-800 西宮市一里山町 19-18)

【短報】ナカネアメイロカミキリ隠岐諸島の記録

島根県隠岐諸島から記録のあるカミキリムシ科甲虫は, 林・門脇(2012)によれば150種にも及ぶ。この種数から, 隠岐は本州属島のカミキリムシ科としては非常に高い種多様を示すとともに, 精度高い調査が行われてきたことを伺い知ることができる。2013年夏に, 隠岐島前で養老孟司博士が採集されてきたカミキリムシの標本を調べたところ, 過去に記録のないナカネアメイ

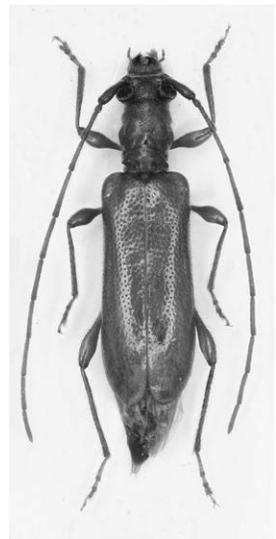


図1. 隠岐島前で採集されたナカネアメイロカミキリ(♀)。